

大幡中学校の皆さんへ

### 読書について

今日の朝会に向け、準備に当たってくれた図書委員のみなさん、お疲れ様でした。また、「本の紹介を」というリクエストをありがとうございます。コメントしたいことを紙にまとめましたので、ここで、この紙を、朝読書しましょう。

まず、本の紹介をする前に、「**読書すること自体**」をお勧めします。

私たちは、全ての場所に行くことはできません。

私たちは、全ての人と出会うこともできません。

私たちは、全ての時代を生きることもできません。

・・・一人の人間は、残念ながら全てのことを経験することはできないのです。一人一人が実体験できることなんて、広い世界、永い歴史の中で、ほんのわずかです。でも、なるべく多くのことを経験したいじゃないですか。その**経験を補うのが、読書による追体験、疑似体験**だと思います。読書をすればするほど、多くのことを経験し、多くのことを知り、多くのことを思い、多くのことを考えます。皆さんには、いーっぱい、本を読んでほしいです。ちょっとしか読まない人は、偏ります。読書経験の豊かな人は、見識豊かで、本の受け売りをめったにしなくなります。本の受け売り言葉が多いようなら、まだまだ、読書経験が足りない。多くの本に出会い、本に書いてあることを自分でかみ砕き、自分の言葉にできる人こそ、魅力的な人なんじゃないでしょうか。

朝読書で、本の世界にはまり込んでますか？いいことです。静かな時間、空間の中、ぜひ、紙に書かれた文字から思い浮かぶ世界にはまり込んでください。

さて、今回は3つの本をお勧めし、それを図書室に寄付したいと思います。

#### 【1つめ、「心に響く小さな5つの物語」藤尾秀昭】

これは、先生方にも読んでほしい。将来、学校の先生になりたいと思ってくれる人がいたら、読んでほしい。特に、「縁を生かす」というお話は、教師という仕事の尊さ、気高さが、紙の上の文字から胸に迫ってくるような話です。エッセイ短編集、実話です。

#### 【2つめ、「のぼうの城」和田 竜】

これは、歴史（戦国時代など）好きな人、リーダーとしてすぐ人にイライラしてしまう人、熊谷近辺の地元に関心が高い人、「のぼうの城」の映画を観たことがある人にも読んでほしい。映画よりも原作本の方が、深く、感動的だと私は思います。珍しいリーダー像が描かれています。こういうリーダーもアリだな、と思えてきます。史実をベースにした小説（一部架空）です。

#### 【3つめ、「イン・ザ・プール」奥田英朗】

奥田英朗の精神科医・伊良部シリーズ短編集の第1作です。ちなみに、第2作「空中ブランコ」という本で、直木賞を受賞しました。紙の上の文字を読んでいるのに、のめり込んでいき、だんだん話が忙しくなるような感覚、追い立てられるような感覚になり、早くページをめくって続きが読みたくなります。「フレンズ」という短編から読み始めるのがオススメです。

今度、私も図書室に行ったり、どこかの教室で朝読書に混ざったりしてみたいと思います。

中谷 樹